

平成23年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	地球温暖化対策(新エネルギー関係)		基本目標	地球温暖化防止対策の推進		
担当課(局)・係	政策推進課	総合政策係	記入者	宮越 信義	評価者	森 弘道
評価状況	理由	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 評価対象外 ※評価対象外を選択した場合は、その理由を下段から選んでください				
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務である <input type="checkbox"/> H24年度以降実施しない <input type="checkbox"/> その他(※下段に理由を記入)				

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を)	高鍋町内に賦存する新エネルギーを活用し、普及促進を図ることでCO ₂ の排出削減を目指す。										
事業の内容	総務省の委託事業である「緑の分権改革」推進事業により、町内の新エネルギーの賦存量・利用可能量調査を実施。また、ハウスの冷暖房実証試験を実施した。さらに「地球に優しいまちづくり構想」を策定し、今後新エネルギーの普及促進と省エネルギーの推進を図っていく。											
主な支出項目	22年度決算額	18,368	千円	23年度予算額	0	千円	事業従事者数	H22 0.23	人	H23 0.48	人	
	報償費	63	千円	国庫支出金		千円	22年度人件費	1,655			千円	
	旅費	386	千円	県支出金		千円	23年度人件費	3,426			千円	
	需用費	69	千円	地方債		千円	23年度予算額における一般財源の割合(H23)		#DIV/0!	%		
	委託料	17,850	千円	一般財源		千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください					
地球温暖化対策の推進に関する法律												
町の補助事業	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助		補助事業名									
	補助交付団体		補助金要綱									
	22年度	補助額	#N/A	円	補助の形態	#N/A	23年度補助額		円	終期		年度
		団体の決算額	#N/A	円	昨年度までの補助金見直しの状況・検討委員会での決定事項等							
		補助の割合	#N/A	%								
繰越額		#N/A	円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか									
	1 賦存量・利用可能量調査	町内の新エネルギー賦存量及び利用可能量を調査し、太陽エネルギーの賦存量が多いこと									
	2 実証試験調査報告書	太陽熱エネルギーを利用したビニールハウスの冷暖房システムの実証試験を実施し、除湿									
	3 将来構想の策定	「地球に優しいまちづくり構想～新エネルギーによる地域活性化に向けて～」を策定した。									
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に									
	1 緑の分権改革推進会議	町内各種団体・事業所・学識経験者で構成する推進会議を設置し、将来構想の策定を行うため5回会議を									
	2 緑の分権改革プロジェクト会議	庁内の関係課職員で構成するPJ会議を設置し、将来構想の素案検討を行うため5回会議を									
	3										

◎達成状況

指標名		単位	21年度	22年度	23年度
成果指標	賦存量・利用可能量調査	目標値		1	0
		実績値	式	1	
		達成率	%	#DIV/0!	100.0%
	実証試験調査報告書	目標値		1	0
		実績値	式	1	
		達成率	%	#DIV/0!	100.0%
将来構想の策定	目標値		1	0	
	実績値	式	1		
	達成率	%	#DIV/0!	100.0%	
活動指標	緑の分権改革推進会議	目標値		5	5
		実績値	回	3	
		達成率	%	#DIV/0!	60.0%
	緑の分権改革プロジェクト会議	目標値		5	5
		実績値	回	5	
		達成率	%	#DIV/0!	100.0%
0	目標値				
	実績値				
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	

事務事業名	地球温暖化対策(新エネルギー関係)	担当課(局)	政策推進課
-------	-------------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	
		自己評価	委員評価
(必要性) 地球温暖化対策は地球規模の課題である。今後、地球に優しい新エネルギーの普及促進、省エネルギーの推進は不可欠である。	◎目的からして町が行うべきか	2	-
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	-
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2	-
	◎事業廃止による影響があるのか	2	-
有効性 昨年、将来構想の策定、賦存量の調査などを行ったところであり、今後、個別具体的な取り組みを進めていくところである。事業の実施により地球温暖化対策への有効性は十分に確保できる。	◎目標に対して成果は得られているか	0	-
	◎すでに目的は達成されていないか	2	-
効率性 今後、新エネルギーの普及促進、省エネルギーの推進を図るためには、町民・事業所と一緒に考えていく必要がある。また、事業を展開していくには、ある程度の町負担は避けられない。CO ₂ の排出削減には直接的な効果がある。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	0	-
	◎費用対効果が十分に認められるか	1	-
協働性 実施する事業によっては協働の可能性はある。(町民出資型協働発電所の管理運営など)	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	1	-
合計(最高18点)		12	-

※町補助をしている場合のみ記入

(公平性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること		-
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか		-
	◎町民の理解が得られる事業であるか		-
合計(最高4点)		0	-
その他			

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価 ◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	東日本大震災の被害から、日本のエネルギー政策は否応なしに転換するものと思われる。緑の分権改革で取り組んだ太陽熱利用のビニルハウス実験結果から将来に向けて作物栽培の実証試験に取り組みたい。緑の分権委託業者の東芝との関係も維持しながら「地球にやさしいまち高鍋・エコタウン高鍋」をモデル化していきたい。	今後の方向性			
		事業の方向性 拡充 現状維持 縮小 廃止			
		コスト			

事務事業評価委員会 評価欄	事業	拡充	◎緑の分権改革推進事業に引き続いて、エコタウンのモデル事業として取り組みを強化してもらいたい、その場合は国県補助事業の導入を図りながら進めてもらいたい。
	コスト	現状維持	
	委員評価	-	
	外部評価	-	